

Hello! FUJISEI

No.295

久しぶりに学生時代の友人が集まりました。61～62歳となり、特別支給の老齢厚生年金が支給される年齢ですが、それではとても生活できないと、みんな仕事をしています。老後の生活資金をどうするかは、その年代になってみると切実な問題です。

厚生労働省の「第10回中高年者縦断調査（中高年者の生活に関する継続調査）の概況（平成26年）」は、団塊の世代を含む全国の中高年者世代の男女を追跡して、その健康・就業・社会活動について、意識面・事実面の変化の過程を継続的に調査

老後の生活資金準備は どうしますか？

仕事をしなければ暮らしていけない

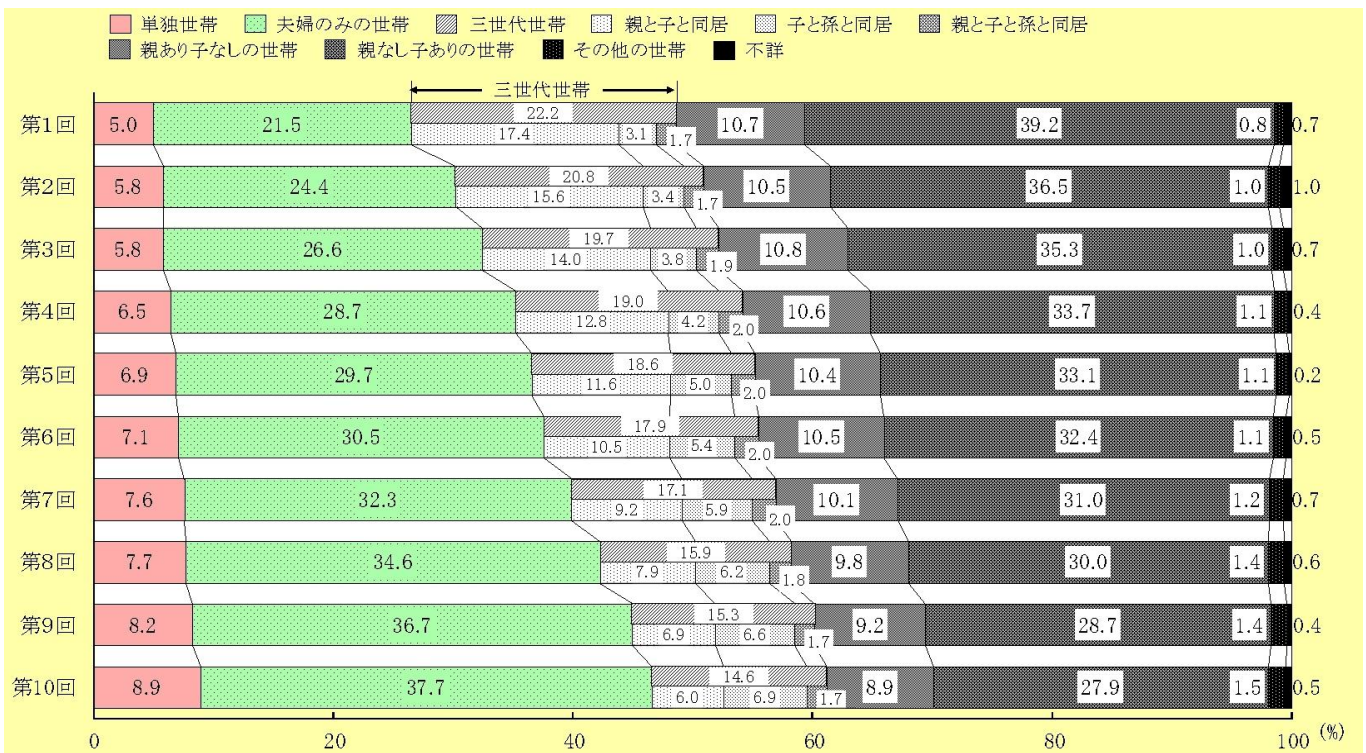
し、行動の変化や事象間の関連性等の把握を目的として実施。平成17年10月末現在で50～59歳の全国の男女を対象に、そのうち第8回調査又は第9回調査において協力を得られた人を客体としており、第10回調査の対象者の年齢は59～68歳です。

9年間の世帯構成の変化をみると「夫婦のみの世帯」は21.5%から第37.7%と増加し、「三世帯世帯」は22.2%から14.6%、「親なし子ありの世帯」は39.2%から27.9%と減少しています。就業状況の変化は、「正規の職員・従業員」は37.9%から10.1%に減少し、「自営業主、家族

従業者」は16.0%から14.8%、「パート・アルバイト」は16.4%から17.3%とほぼ横ばいです。

また、性、第1回の就業状況別に第10回の就業状況をみると、男性の「（第1回）正規の職員・従業員」では「仕事をしていない」31.4%が最も高く、次いで「正規の職員・従業員」23.0%、「労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員・嘱託」21.1%、「パート・アルバイト」13.6%で、女性の「（第1回）パート・アルバイト」では「パート・アルバイト」47.5%が最も高く、次いで「仕事をしていない」42.9%となっています。

第1回調査から第10回調査までの世帯構成の変化 厚生労働省「第10回中高年者縦断調査（中高年者の生活に関する継続調査）の概況」



AIG富士生命保険株式会社

〒105-8633 東京都港区虎ノ門4-3-20
神谷町MTビル